

和光市協働事業審査委員会 会議録（要点記録）

日 時： 平成 24 年 10 月 26 日（金） 10 時～11 時 40 分

場 所： 和光市庁舎 5 階 502 会議室

出席者： 協働事業審査委員

【常任委員】

- 第 1 号委員（知識経験） 平 修久（聖学院大学コミュニティ政策学科長）
谷本 有美子（公益社団法人神奈川県地方自治研究センター研究員）
- 第 2 号委員（公募市民） 関口 泰典
鈴木 研太
- 第 3 号委員（市職員） 星野 賢（委員長・市民環境部長）
石田 清（企画部長）

【臨時委員】

- ・市民提案①吹き矢で介護予防
阿部 剛（長寿あんしん課長補佐）
- ・行政提案①子育て家庭孤立防止活動（ホームスタート）
茂呂 あかね（こども福祉課長補佐）

事務局： 市民活動推進課 深野・渡邊・野口・大竹

傍聴者数： 6 名

1 公開プレゼンテーション・ヒアリングの実施について

事務局より説明

- ・市民提案 1 件、行政提案 1 件の応募があった。
- ・第 1 次審査において、和光市協働事業提案制度実施要綱第 4 条に定める対象事業としての要件確認を行った結果、2 提案とも第二次審査へ移行することとなった。
- ・プレゼンテーションは 15 分、ヒアリングは 10 分間とする。
- ・「協働事業提案採点表」を用いて審査を行う。採点は審査項目ごとに 3 点満点とする。
- ・審査項目は「協働事業審査要領」3(1)の 10 項目 (1)事業の必要性 (2)公益性・市民サービスの向上 (3)具体性 (4)継続性・発展性 (5)適正な予算 (6)協働の必要性 (7)役割分担の妥当性 (8)協働の効果 (9)事業実施能力 (10)事業に対する熱意 とする。なお、行政型提案事業については、(1)事業の必要性和(3)具体性を除いた 8 項目とする。
- ・採択事業の決定は、原則として、各委員の採点結果を集計し、採択候補事業を選定する。選定に当たっては、提案された事業を所管する課所等からの意見についても考慮し決定する。ただし、協働事業審査要領に基づき、委員の平均点が 20 点（行政提案については 16 点）に満たない提案は、採択しないものとする。

2 協働事業提案に係る公開プレゼンテーション・ヒアリング

行政提案①『子育て家庭孤立防止活動（ホームスタート）』についての審議

プレゼンテーション：NPO法人 わこう子育てネットワーク



■ヒアリング

【谷 本】20 家庭の訪問を 10 人でできるのか。また、20 家庭の設定は妥当であるか。また、ホームビジター養成講座カリキュラムは、「すべて出席した場合にのみ終了証が発行される」とあるが、欠席した人へのサポートはどのようにするのか。

【発表者】1 人 1 家庭を担当するわけではないため、20 家庭の訪問は可能である。また、他市等で実施している事業を参考にした場合に、和光市の人口規模では 20 家庭が妥当である。また、ビジター候補者に対し、「実施前に全出席しないと修了証を発行しない」と説明している。参加者のほとんどは全出席をしている。欠席者には、補講を行っている。演習を休む場合には、翌年の養成講座まで待ってもらう。

【鈴 木】ビジターに対する研修はどのようなものか。また、ビジター同士の交流はあるのか。

【発表者】ビジターに対する研修は 1 ヶ月に 1 回実施する。また、お茶会等を兼ねたミーティングも行う。ビジター同士の関係を深めて、チームワークが育っていくようなフォローアップをしていく。

【平 田】家庭とビジターのマッチングは、どのような点に注意して行うのか。

【発表者】家庭に訪問し、現状のニーズアセスメントをした後に、オーガナイザーが、ビジターをマッチングする。オーガナイザーは、研修を通じてビジターの性格や経験を把握している。

【石 田】平成 22 年度から県の助成金を活用してこの事業を実施しているが、成果を教えてください。

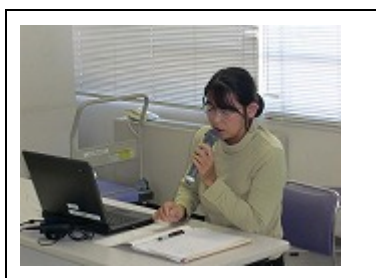
【発表者】事例紹介になるが、外に出られなかったお母さんが、ビジターと一緒に外出したことにより、自分で外出できるようになり、元気になった。子育てに行き詰まり子供に危害を与えそうなお母さんが、ビジターが傾聴することにより、楽しく子育てができるようになった。

【関 口】和光市らしさを事業の中で出せるか。

【森 田】和光は他市等に比べ、非常に転入転出が多い。この事業は和光こそ実施しなければいけない事業である。ホームスタートの仕組みの中で、安全に事業を実施していきたい。

市民提案①『吹き矢で介護予防』についてのプレゼンテーション・ヒアリング

プレゼンテーション：NPO法人ぽけっとステーション



■ヒアリング

【関 口】中央公民館において活動しているスポーツ吹き矢サークルを知っているか。この団体と連携・協力できないか。

【発表者】知らなかった。可能であれば連携・協力したい。

【谷 本】参加者の口腔機能の向上を成果にしている。講座だけではなく、参加者が日常生活の中でできることをサポートできる体制はあるか。

【発表者】講座終了後も継続して見ていきたい。現在実施している事業においても、講座に参加した人に後日、声がけをしている。サポート体制は取っている。

【委員長】介護保険対象者以外も講座対象に含めるのか。

【発表者】どの年齢においても口腔ケアは必要のため、年齢の縛りはしない。

【平】事業における長寿あんしん課の関わりを教えてほしい。

【発表者】地域包括支援センターと連携が必要なため、長寿あんしん課を通して行いたい。

【鈴木】実施計画書では、3ヶ所で2回となっていたが、プレゼンテーションでは、2ヶ所で2回となっている。変更した理由を教えてほしい。

【発表者】実施計画書が正しい。

【谷 本】講座参加者同士でサークルを立ち上げるためのアイデアを持っているか。

【発表者】現在、朝霞市で中間支援の立ち上げをしている。このノウハウを来年度に活かしたい。

【鈴木】講座参加者の募集方法を教えてほしい。

【発表者】市の広報による周知。地域包括支援センターから対象者にPRしてもらう。自治会にお知らせしていただく。他にも方法があれば、実施したい。

【関 口】吹き矢をしている協会は複数ある。どの協会の方針を参考に事業を実施するのか。

【発表者】協会を調べて、勉強する。

3 採択候補事業について

行政提案①『子育て家庭孤立防止活動（ホームスタート）』 採択候補事業として決定。

合計点 139 点

最終点（合計点を委員人数 7 人で割った点） 19.85 点 *16 点未満は採択しない

市民提案①『吹き矢で介護予防』 採択候補事業として決定。

合計点 148 点

最終点（合計点を委員人数 7 人で割った点） 21.14 点 *20 点未満は採択しない